

2023(令和5)年度埼玉県・オハイオ州スカラシップ

〈語学・大学留学コース〉11月レポート

“いくつもの出会いのなかで”

2023(令和5)年度奨学生 河原塚 咲

みなさま、こんにちは。

リビングに突然現れたクリスマスツリーを見て、時間の進む速さを感じている今日この頃です(ツリーはハウスメイトが家から持ってきてくれたようです)。様々ななかかわりの中で、人の優しさに触れ、どうしたらこの感謝の気持ちを不自由な英語で伝えられるか…そんなことを考える時間が多かった1ヶ月でした。

今回のレポートでは、大学生以外とのかかわり、11月下旬にあったとある一大イベントについて紹介します。

CONTENTS

1. 小学生へ日本文化紹介
2. 高校生との時間
3. Thanksgiving Day

1. 小学生へ日本文化紹介

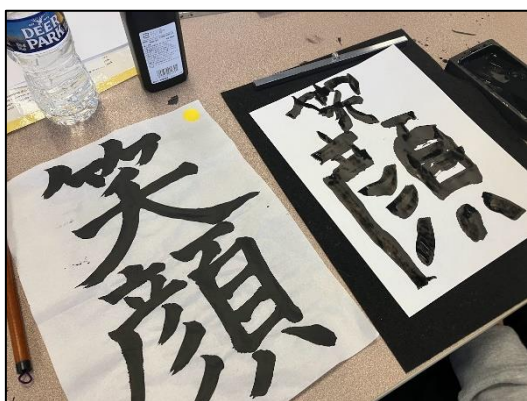
[10月レポート](#)でも紹介した Cultural Connections のクラスで、Hancock County Gifted Program に参加し、日本文化について紹介しました。小学生と関わる授業として、他にも Genki Kids という授業も履修しています。これは、毎週違ったトピックを扱い(私たちのペアは、日本語で「曜日」を紹介しました)、その後にアクティビティをしながら、日本語に親しむ授業です。フィンドレー大学には日本語専攻があり、またオハイオ州は日系企業が多い地域であるため、日本語や日本の文化を紹介する機会が多く、生まれ育った国を「外」から客観的に見るという貴重な経験ができています。

さて、今回のプログラムでは Calligraphy(習字)を紹介しました。予め、難易度ごとにお手本を用意しておき、漢字(またはひらがな)の意味を説明したうえで、書きたいものを選んでもらいました。工夫したのは、お手本を見せて書かせるのではなく、他のパーツとの位置関係をインストラクトし、stop(とめ)や sweep(はらい)

といった英単語を積極的に使うことです。自分の英語力の向上だけでなく、彼らに漢字やひらがなといった、普段の生活で親しむことのない日本語に、興味を持ってもらいたかったからです。作品が出来上がった後、自分から「持って帰ってもいい？」と聞いてくれたことや、インストラクトの合間に彼らの日常生活について教えてくれたことがとても嬉しかったです。



Calligraphy を教える様子です



完成した「笑顔」



他に Japanese card game として
かるたをしました
残りの枚数が少なくなると頭に手を置
くなど、工夫次第で楽しくすることがで
きると学びました

2. 高校生との時間



最後の Meeting での Cookie decorating
こちらの人は行事のたびによくすることだそうです

こちらと同じく Cultural Connections の授業の一環として、9月の終わりから11月の中頃まで週1回高校生と交流する機会を設けていました。日本食を一緒に作る、マリオカートをして遊ぶ…このように毎回何かを一緒にする企画をしていたわけではなく、ただ向かい合って1週間にあった出来事を話す日もありました。交流した高校生は乗馬に親しむ女の子で、関わりの中で自分の生活のこと、オハイオ州のことを（彼女は生まれも育ちもオハイオ州だそうです）たくさん教えてくれました。特に強く感じたのは、家族をいかに大切にしているかということです。彼女も1番大事にしているものは何？と聞いた時は「家族」と明言していましたし、先程紹介した Gifted

Program の小学生がよく選んでいた文字は「家族」でした。

最後の Meeting では、彼女の提案で Cookie decorating をしました。週に1回会うことが、彼女にとって大変だった時があったかもしれません。たくさんの「発見」をくれた彼女に本当に感謝しています。

3. Thanksgiving Day

11月の第4木曜日は Thanksgiving Day でした。その前日の水曜日から週末まで、大学も休みに入りました。家族と休日過ごすため多くの学生は家を出ており、キャンパスはとても閑散としていました。

Thanksgiving Day 当日、私の場合、朝はキャンパス内にある教会で食事をし、その後はフィンドレー大学で教鞭をとる川村先生のご友人のお宅で、食事をごちそうになりました。訪問したご家族は、初対面にも関わらずあたたかく迎えてくれました。まず驚いたのは丁寧に用意されたテーブル上の食器類と、料理の数々。キッチンで焼き上げた手作りの Turkey は、朝の6時から準備をしてくれたようです。「君たちが来なくても、もっと小さな Turkey を用意していたよ」と言っていました、とても嬉しい気持ちになりました。用意していた料理はどれもおいしく、食後のデザートまで楽しむことができました。

特に印象的だったのは、Thanksgiving Day の由来を丁寧に説明してくれたことと、訪問してすぐにひとりひとりの名前の書かれたネームタグを配ってくれたことです。先述の川村先生が「できるだけはやく人の名前をおぼえて、距離を縮めること」と、留学についてのアドバイスしてくれたことがよみがえりました。食事中も、ご家族は私たちの胸につけたネームタグを見て、たくさん名前を呼びながら話をしてくれました。本当に些細なことかもしれませんが、私たちを知ろうとしてくれるその姿勢に感銘を受けました。

教会、ご友人のお宅…おなかと心の両方が満たされた1日でした。



テーブルに並んだ料理の数々



パンに至るまですべて手作り
数日経った今も「また食べたいね」と話題に
上るほどのおいしさでした

11月レポート、ご覧いただきありがとうございました！

12月レポートでは約1ヶ月間ある Winter break について紹介します。お楽しみに！

*本プログラムや生活について、聞いてみたいことがありましたら

kawaharazukas@findlay.edu にお気軽にご連絡ください。私の経験が、みなさまの一助になればと思います